

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第21週[5月24日～5月30日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
 TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>  
 E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

## 県内情報

### ○ 患者情報総評

**警報発令疾患：手足口病**      **注意報発令疾患：水痘、ヘルパンギーナ**

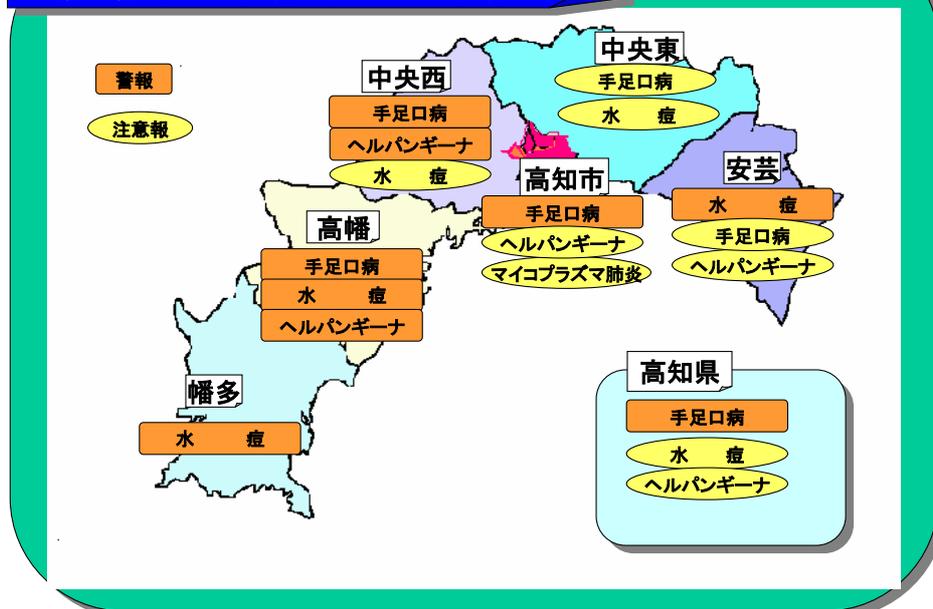
- ・ 晴れの天気が続き、気温も安定しており過ごし易い週であった。
- ・ 感染性胃腸炎は高知市で増加したが、その他の地域では減少し、総数は前週の約7割に減少した。
- ・ 手足口病（高幡：警報→警報，中央西：警報→警報，高知市：注意報→警報，中央東：注意報→注意報，安芸：注意報）は中央西と高幡を除く地域で増加し、総数はさらに増加した。
- ・ 水痘（高幡：警報，幡多：注意報→警報，安芸：警報，中央西：注意報，中央東：注意報）は高知市以外の地域で増加し、総数は前週の約2倍増となり再び注意報値を超した。
- ・ ヘルパンギーナ（中央西：注意報→警報，高幡：注意報→警報，高知市：注意報，安芸：注意報→注意報）は安芸と幡多を除く地域で増加し、総数は前週の約1.5倍増となり注意報値を超した。
- ・ マイコプラズマ肺炎（高知市：注意報）は高知市では前週に引き続き注意報値を超している。

上位疾患構成図



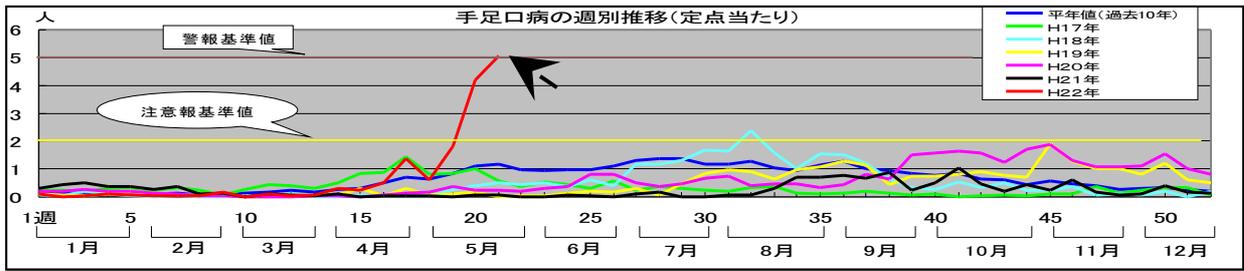
## 地域別感染症注意報・警報発生状況

第20報 (2010年5月17日～2010年5月23日)



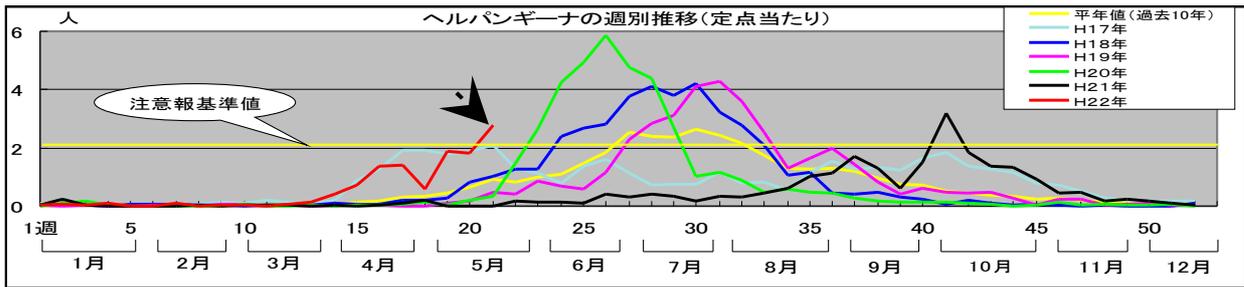
### 手足口病：今週5.07（注意報値：2.00 警報値：5.00）

総数は引き続き増加し、警報を超した。地域毎にみると、高幡、中央西、高知市では警報値を超し、中央東と安芸では注意報値を超している。過去10年間のデータを見ると、県全体で警報値を超したのは平成14年の第20、21週のみである。夏型疾患であり、今後さらに増加することも考えられるので、注意が必要である。また、全国の第21週のデータでは、その前の週の約2倍に増加し、過去11年間の同時期で最多となっている。四国を中心に西日本で流行がみられている。



**ヘルパンギーナ：今週2.77（注意報値：2.00 警報値：4.00）**

地域毎にみると、中央西と高幡で警報値を超し、高知市と安芸で注意報値を超している。例年と比較して流行の立ち上がり早く、第14週以降増加傾向が続いている。過去10年間の同時期で、最も多い報告数となっており、今後の推移が注目される。



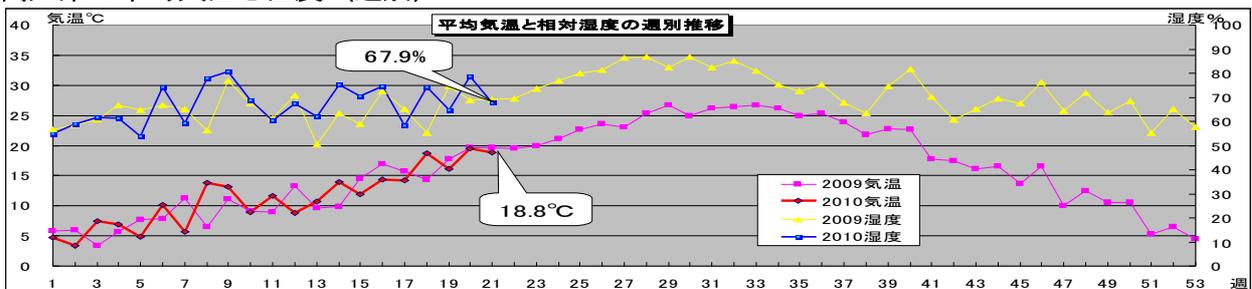
**検査情報**

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
21	肺炎	1歳男	高知市	Human metapneumovirus
21	感染性胃腸炎	6歳女	高幡	Rotavirus A群
21	不明熱	1歳女	高幡	Parainfluenza virus 3

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 1例（28歳女）《中央東》（今年57例）

○ **高知県の平均気温と湿度（週別）**



○ **定点からの地域ホット情報**

**幡多：**

《大井田病院小児科》：インフルエンザの1例（15歳男）はB型陽性  
 《さたけ小児科》：膿痂疹 1例（1歳男）

**高幡：**

《もりはた小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 2例（4, 10歳女：姉妹） 手足口病の流行が続く  
 帯状疱疹 1例（8歳女）

**中央西：**

《石黒小児科》：単純ヘルペス 1例（53歳女） ヘルペス性歯肉口内炎 1例（8歳男）  
 帯状疱疹 1例（5歳女） 水痘の1例（3歳女）はワクチン接種済み

**高知市：**

《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス扁桃炎 1例（0歳男）  
 病原性大腸菌 2例（3, 5歳女）

**中央東：**

《吉本小児科皮膚科》：ヘルペス性口内炎 1例（3歳女）  
 《早明浦病院小児科》：感染性胃腸炎の2例（3, 8歳女）はロタウイルス感染症  
 伝染性紅斑が保育園で流行中

## 全国情報第19週 (5/10～5/16) (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

2類感染症：結核312例

3類感染症：細菌性赤痢5例、腸管出血性大腸菌感染症16例（有症者14例、うちHUSなし）、腸チフス1例

4類感染症：A型肝炎17例〔\*第10～19週の累積報告数は159例（劇症肝炎5例、うち死亡1例）となり、都道府県別では、福岡県24例、東京都21例、広島県20例、兵庫県11例の順に多い。広域アウトブレイクの可能性もあり、引き続き注意を要する。〕、つつが虫病6例、日本紅斑熱1例、マラリア1例、レジオネラ症4例

5類感染症：アメーバ赤痢3例、ウイルス性肝炎（B型）3例、急性脳炎3例、後天性免疫不全症候群19例（AIDS 5例、無症候13例、その他1例）、ジアルジア症1例、梅毒4例、破傷風2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん1例、麻しん14例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、E型肝炎1例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

### ◆百日咳

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告数に基づいて百日咳の患者発生状況の分析を行っている。2010年第19週の週別の患者報告数は134例（定点当たり報告数0.04）となり、前週（第18週）の報告数（70例）を大きく上回った。都道府県別では、神奈川県20例、千葉県18例、栃木県10例、福岡県10例、兵庫県9例、広島県9例、新潟県8例、東京都7例の順となっており、関東地方からの報告数の増加が目立っている。2010年第1～19週までの累積報告数は1,395例であり、年齢群別では、20歳以上56.0%（781例）、0歳10.5%（147例）、1歳4.7%（66例）、2～3歳6.7%（93例）、4～5歳6.3%（88例）となっている。20歳以上の報告割合は年々高くなってきており、2010年では50%を上回った状態となっている。累積報告数を男女別でみると、男性40.7%（568例）、女性59.3%（827例）と女性の報告割合が高く、0歳児では男性の報告割合が高いものの、20歳以上では女性の報告割合が60%以上を占めている。

感染症情報センターでは、成人層を中心とした患者発生状況の実態をより明らかにすることを目的として、2008年5月から「百日咳DB：全国の百日咳発生状況」を立ち上げ、感染症発生動向調査とは別に解析を行っている。2008年5月8日から2009年12月28日までに同DBに報告された756例（後に百日咳を否定された2例を除く）においても同様に、20歳以上の報告数が多くを占めている。

百日咳は、現在でもワクチン未接種の乳児が罹患した場合には重症化が危惧され、かつては乳幼児を中心に夏季に流行する疾患であった。しかし最近では、成人層の患者発生割合が年々高くなってきており、その詳細を明らかにするためには、現在の小児科定点による発生動向調査では不十分であると言わざるを得ない。また、既に米国等では思春期から成人層への百日咳対策としてワクチンの追加接種が実施されており、我が国においても早急に検討が必要と思われる。現状のままでは何等有効な対策が講じられなければ、今後は成人層を中心とした百日咳の流行が毎年継続的に発生し、それによってワクチン未接種の乳児への感染機会も増加することが懸念される。百日咳の今後の発生動向には注意が必要である。

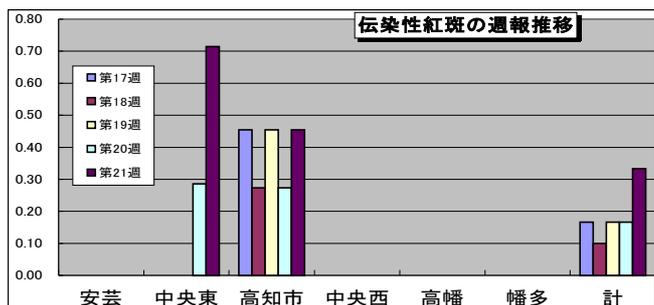
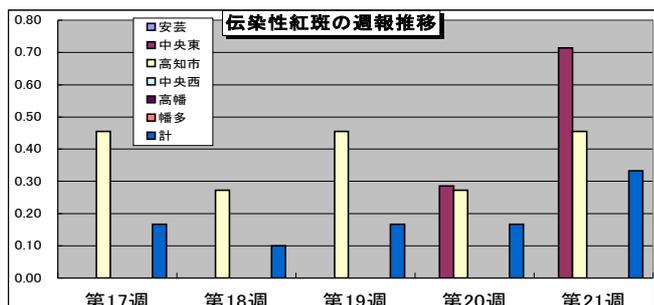
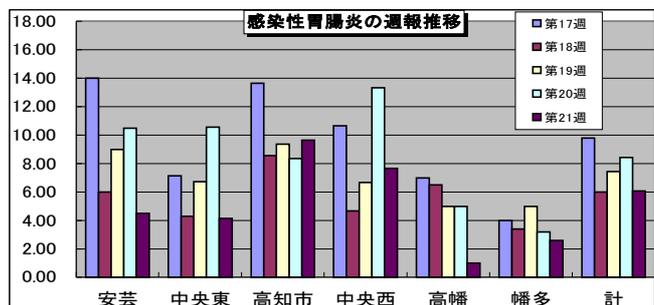
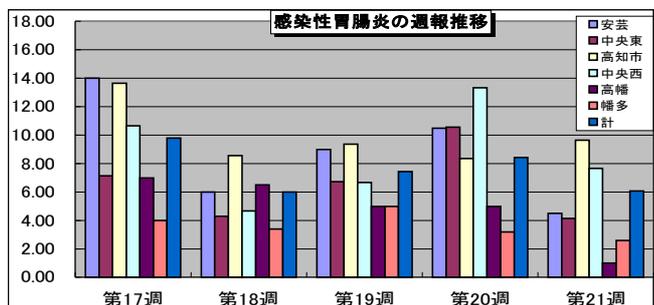
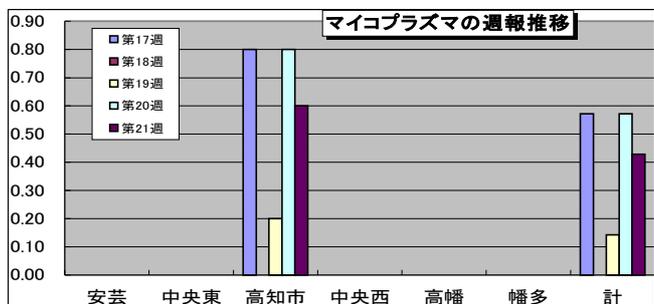
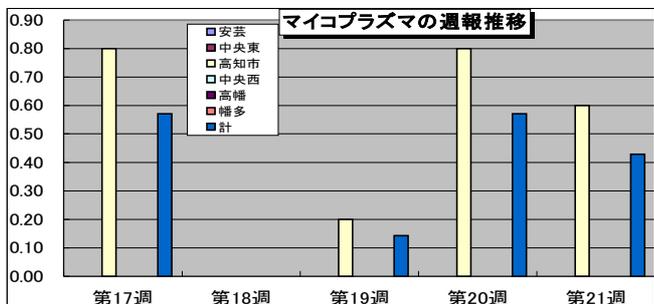
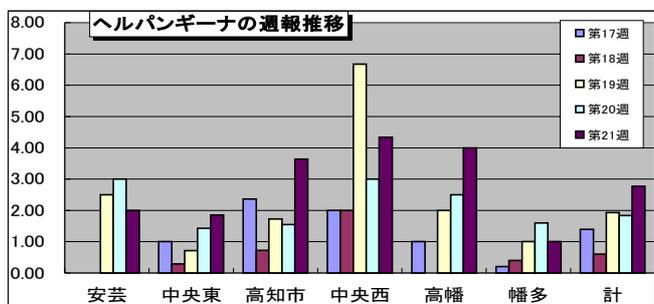
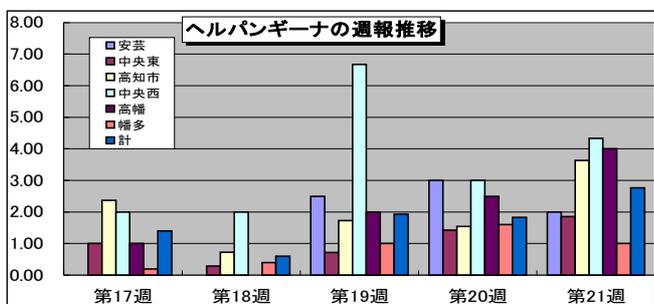
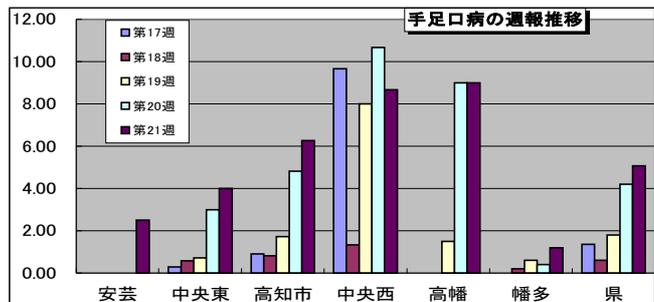
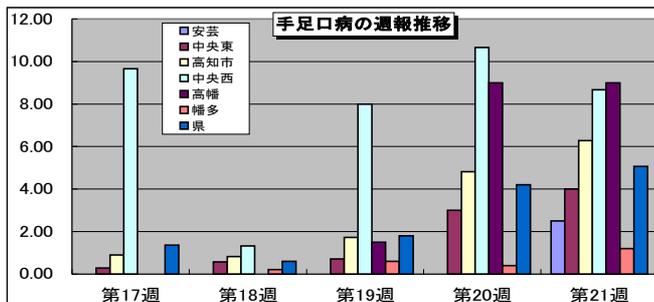
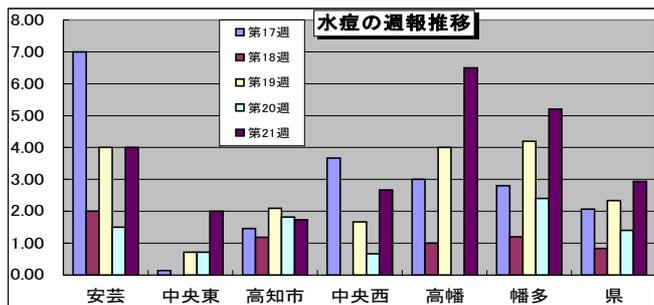
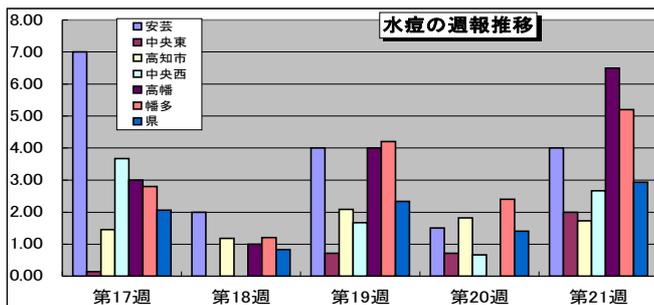
### ◆流行性耳下腺炎

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告数に基づいて流行性耳下腺炎の患者発生状況の分析を行っている。2010年第19週の定点当たり報告数は1.36（報告数4,105）であり、前週（第18週）の1.01を大きく上回り、2007年以降では最も高い値となった。都道府県別では石川県（3.59）、和歌山県（2.90）、宮崎県（2.86）、富山県（2.79）、福島県（2.42）、大分県（2.31）、埼玉県（2.18）の順であり、広範な地域で報告数の増加がみられている。2010年第1～19週の定点当たり累積報告数は19.00（累積報告数57,565）であり、性別では男性53.1%（報告数30,577）、女性46.9%（報告数26,988）、年齢群別では4～5歳32.8%、6～7歳22.4%、2～3歳21.3%、8～9歳10.2%の順となっている。7歳以下で全報告数の80%以上を占めているのは例年と同様である。

1982年以降の流行性耳下腺炎の年別・週別の報告数の推移をみると、1980年代は3～4年周期で大きな流行を繰り返していたが、1990年代になると流行のピークは低く、周期が長くなる傾向となり、2000年代に入ると再び流行のピークがやや高くなり、周期は短くなってきている。

これは、MMRワクチンを含めたムンプス関連ワクチンの接種率に関係しているものと思われる。このままの状況が続けば、2010年は2007年～2009年の過去3年間と比較して患者数が増加するものと予想される。流行性耳下腺炎の報告数は夏季休暇の開始前後にピークとなる場合が多く、更に増加してくるものと思われる。今後とも、本疾患の流行状況、発生動向には注意が必要である。

## 2010年週報推移(定点当たり)



定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(20週)	高知県(21週未累計) H22/1/4~H22/5/30
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ						1	1 ( 0.02 )		627 ( 0.13 )	2,544 ( 53.00 )
	咽頭結膜熱						1	1 ( 0.03 )		859 ( 0.28 )	31 ( 1.03 )
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	13	5	1	2	25 ( 0.83 )	27 ( 0.90 )	5,533 ( 1.82 )	450 ( 15.00 )
	感染性胃腸炎	9	29	106	23	2	13	182 ( 6.07 )	253 ( 8.43 )	25,780 ( 8.49 )	6,019 ( 200.63 )
	水痘	8	14	19	8	13	26	88 ( 2.93 )	42 ( 1.40 )	5,747 ( 1.89 )	836 ( 27.87 )
	手足口病	5	28	69	26	18	6	152 ( 5.07 )	126 ( 4.20 )	4,267 ( 1.41 )	445 ( 14.83 )
	伝染性紅斑		5	5				10 ( 0.33 )	5 ( 0.17 )	1,623 ( 0.53 )	54 ( 1.80 )
	突発性発疹		4	9	2	3	1	19 ( 0.63 )	13 ( 0.43 )	1,892 ( 0.62 )	222 ( 7.40 )
	百日咳			1				1 ( 0.03 )		162 ( 0.05 )	20 ( 0.67 )
	ヘルパンギーナ	4	13	40	13	8	5	83 ( 2.77 )	55 ( 1.83 )	1,571 ( 0.52 )	349 ( 11.63 )
	流行性耳下腺炎		1	6				8 ( 0.27 )	5 ( 0.17 )	3,779 ( 1.24 )	98 ( 3.27 )
	RSウイルス感染症									275 ( 0.09 )	759 ( 25.30 )
	眼科	急性出血性結膜炎									23 ( 0.03 )
流行性角結膜炎				1				1 ( 0.33 )	3 ( 1.00 )	400 ( 0.59 )	26 ( 8.67 )
基幹	細菌性髄膜炎								1 ( 0.14 )	9 ( 0.02 )	4 ( 0.57 )
	無菌性髄膜炎									12 ( 0.03 )	6 ( 0.86 )
	マイコプラズマ肺炎			3				3 ( 0.43 )	4 ( 0.57 )	213 ( 0.46 )	27 ( 3.86 )
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								1 ( 0.14 )	18 ( 0.04 )	7 ( 1.00 )
計 (小児科定点当たり人数)	26 ( 13.00 )	98 ( 14.00 )	272 ( 24.36 )	77 ( 25.67 )	45 ( 22.50 )	56 ( 11.13 )	574 ( 18.99 )				
前週 (小児科定点当たり人数)	30 ( 15.00 )	124 ( 17.71 )	220 ( 19.18 )	89 ( 29.67 )	35 ( 17.50 )	39 ( 7.80 )		535 ( 17.53 )	52,790	11,899 ( 362.43 )	

定点当たり

第21週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(20週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ						0.13	0.02		0.13
	咽頭結膜熱						0.20	0.03		0.28
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.57	1.18	1.67	0.50	0.40	0.83	0.90	1.82
	感染性胃腸炎	4.50	4.14	9.64	7.67	1.00	2.60	6.07	8.43	8.49
	水痘	4.00	2.00	1.73	2.67	6.50	5.20	2.93	1.40	1.89
	手足口病	2.50	4.00	6.27	8.67	9.00	1.20	5.07	4.20	1.41
	伝染性紅斑		0.71	0.45				0.33	0.17	0.53
	突発性発疹		0.57	0.82	0.67	1.50	0.20	0.63	0.43	0.62
	百日咳			0.09				0.03		0.05
	ヘルパンギーナ	2.00	1.86	3.64	4.33	4.00	1.00	2.77	1.83	0.52
	流行性耳下腺炎		0.14	0.55				0.27	0.17	1.24
	RSウイルス感染症									0.09
	眼科	急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎				1.00				0.33	1.00	0.59
基幹	細菌性髄膜炎								0.14	0.02
	無菌性髄膜炎									0.03
	マイコプラズマ肺炎			0.60				0.43	0.57	0.46
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								0.14	0.04
計 (小児科定点当たり人数)	13.00	14.00	24.36	25.67	22.50	11.13	18.99			
前週 (小児科定点当たり人数)	15.00	17.71	19.18	29.67	17.50	7.80		17.53		